

# 特攻勇士に感謝と敬意を



会報  
**特攻**  
平成27年1月



## 第 103 号

公益財団法人 特攻隊戦没者 慰霊顕彰会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-1-1靖国神社遊就館内・地階

電話 03 (5213) 4594  
FAX 03 (5213) 4596

<http://www.tokkotai.or.jp>  
振替口座 00140-6-59580



編集人 飯田正能  
発行人 羽淵徹也  
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

## 目次

特攻勇士に感謝と敬意を	1
平成27年 年頭のご挨拶	2
謹賀新年	3
ノーブレス・オブリージュ (no-blesse oblige)	4
とは、学徒出陣に思う	7
特攻勇士の慰霊・顕彰施設②	8
平成27年度慰霊行事予定	8



## 平成27年 年頭のご挨拶

理事長 杉山 蕃



新年明けましておめでとうござい  
ます。皆様それぞれに新年を寿いで  
おられることと拝察申し上げます。  
今年が皆様方にとりまして、良い年  
になりますよう、心より祈念申し上  
げます。

昨年は、我が国におきましては、  
風水害、火山、地震等の自然災害が  
かなり多かったように感じておりま  
す。東北大地震の復興も道中端、厳  
しい試練ではありますが、屈するこ  
となく立ち上がって行く必要があります。  
考えれば、人類の進歩は自然  
災害を乗り越えようとする努力に大  
きく依存してきたことを振り返り、  
また新たな努力が必要かと思う次第  
です。

昨年の本顕彰会の動きは、比較的

順調に推移しました。靖國神社、世田  
谷山観音寺における年度慰霊祭を始  
め、各地慰霊行事への参加・支援、護  
国神社への特攻勇士之像寄進も大分県  
を新たに加え、計14体を数え、新年度  
新たな計画を推進中であります。機関  
誌『特攻』も、記念すべき百号記念誌  
を発刊することができ、編集に携わる  
方々の労苦に感謝申し上げます。次第  
です。財務に関しましても、国際金融情

勢不安定な中、資金運用も堅実な実績  
を残しましたことを報告する次第で  
す。反面、戦友・遺族の方々の高齢化  
は如何ともし難く、会員数の減少が続  
いていることも事実であります。何と  
か体制の維持を図り、本会の公益法人  
としての事業を、確実に後世に継承す  
る努力が必要と考えられます。

本年春には、天皇陛下、皇后陛下の  
パラオ方面への行幸啓が行われる旨報  
道されております。誠に畏れ多くも、  
有り難いことであります。我々国民は、  
終戦70年という節目の年に、皇室が範  
を示される、その大御心を深く忖度し、  
社会全般に戦没者慰霊の動きを盛り上  
げることが何より重要でありましょ  
う。

昨年夏、私ども戦没者慰霊団体にも

関連して、大きな出来事がありました。  
それは韓国右翼と言われる階層を中心  
とした「慰安婦問題」関連です。その  
震源となつている朝日新聞が積年行っ  
てきた、我が国を陥れる虚偽の報道に  
ついて謝罪し、事実無根であったこと  
を認めました。しかし、国連人権委員  
会、有力数カ国の下院における非難決  
議にまで及んだこの虚報を行い続けて  
きた責任は重大で、左翼闘士を連想さ  
せる社長の進退ごときで解決する問題  
ではないと考えます。その後、朝日新  
聞から取材の申し込みがあり、通常  
断っている相手ですが、反省の度合い  
を確かめる意味から、理事長室で取材  
に応じました。ところが、取材の態度  
は旧態依然、一向に変化のない左翼思  
考。純粋に慰霊の誠を捧げる本会に関  
し、「特攻隊という悪しき軍事行動の、  
我が国武力への継承」とする見地の取  
材で、早々に取材を断り、記者を追い  
返した次第です。このような左翼的症  
候群が未だに横行するのは残念なこと  
でありますが、私どもは、純粋に若く  
して国に殉じた英霊に追悼の誠を捧げ  
るとともに、ともすれば怠惰・享楽に  
流れがちな人の業を反省、奮起の起点  
としていく必要があります。また、尖

閣・サンゴ密漁といった我が国への  
理不尽な行動への対応も、英霊の皆  
様が望まれたであろう、我が国の姿  
を推量し、毅然たる対応を基本とす  
べきでありましよう。昨年は選挙で  
締めくくられました。自民党の安倍  
政権は、大方の予想どおり、衆議院  
の過半数を確保し、国民による政策  
継承の賛意を得ました。アベノミツ  
クスと言われる危機的な国家財政の  
再建を目指す経済政策を中心に更な  
る躍動が期待される場所です。し  
かし、忘れてならないのは、靖國参  
拝、集団的自衛権一部容認に関わる  
閣議決定等の基本姿勢です。周辺国  
の軍事拡張、国内問題を転嫁する我  
が国への不穏当な行動は、根深いも  
のがあります。このような情勢下、  
我々は築き上げてきた国際的な信用  
と伝統ある民族性を維持するため、  
不当な圧力には毅然として対応する  
「国としての誇り」が必要であり、  
これこそが、真のヘリテージであり、  
我々顕彰会が目指す公益性と相通ず  
るものであると考える次第です。本  
年は新内閣の下、山積する課題に国  
民的協力が求められますが、私ども  
も、顕彰会の活動を通じ、厳しい状

謹賀新年

<p>公益財団法人 大東亜戦争 全戦没者慰霊団体協議会</p> <p>会長 島村 宜伸 理事長 柚木 文夫 専務理事 圓藤 春喜 事務局長 岩田 司朗</p>	<p>公益財団法人 水交会</p> <p>会長 藤田 幸生 副会長 古庄 幸一 理事長 齋藤 隆 副理事長 田内 浩 専務理事 赤星 慶治 事務局長 本多 宏隆</p>	<p>公益財団法人 偕行社</p> <p>理事長 志摩 篤 副理事長 塩田 章 同 戸塚 新 同 深山 明敏 専務理事 白石 一郎 事務局長 若木 利博</p>
<p>公益財団法人 海原会</p> <p>理事長 堺 周一 副理事長 酒井 省三 専務理事 助村 隆典 事務局長</p>	<p>つばさ会</p> <p>会長 遠竹 郁夫 副会長 杉山 弘 同 藤川 壽夫 同 山本 修三 同 吉田 正 専務理事 菊川 忠継 副専務理事 長島 修照</p>	
<p>公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会</p> <p>理事長 杉山 蕃 副理事長 藤田 幸生 専務理事 衣笠 陽雄 理事 白田 智子 同 笹 幸恵 同 小倉 利之 同 水町 博勝 監事 伊集院雅英 同 阿部 軍喜 同 羽瀨 徹也 事務局長</p> <p>同 評議員 秋山 政隆 同 穴山 正司 同 飯田 正能 同 石井 光政 同 石井 千春 同 及川 昌彦 同 太田 兼照 同 大穂 園井 同 倉形 桃代 同 高嶋 博視 同 中江 仁 同 長瀬 彰孝 同 新垣 敬輝 同 根木 東洋 同 早川 雅彦 同 深山 明敏</p>		

況下、敢然として国に殉じた英霊の 必要と考えております。皆様のご支援 新年のスタートを祈念申し上げ、年  
皆様を追悼する国として、当然大切 を積み重ねて行くため、一層の努力が ご鞭撻をお願いするとともに、皆様の 頭のご挨拶と致します。

## ノーブレス・オブリージュ (no-lesse o-blige) とは、 学徒出陣に思う

陸士61期 飯田 正能

ノーブレス・オブリージュ (no-lesse o-blige)、その意味するところは一般に「特権は義務を伴う」とか「高い身分には義務が伴う・地位高き者は責任重し・金持ちや身分の高い者は、そうでない人々を助けなければならない」、あるいは、「貴族の身分は義務を課する↓貴族「高い地位にある者」は、その身分「地位」にふさわしく振る舞わなければならない」などと訳されているが、久し振りに聞く言葉である。今から60数年前、筆者の学生時代に、この言葉を巡って仲間同士色々と議論があったことを思い出した。

そのことを思い出させてくれたのは、日本協議会・日本青年協議会発行の『祖国と青年』平成26年10月号の巻頭時評「吉原恒雄元拓殖大学教授の「マスメディアによる近現代史の捏造」―テレビで特に目立つのがドラマの内容の改竄であり、その典型がNHKの朝ドラ「花子とアン」に見られる―とす

戦色の強い、戦前・戦中の軍部や政府のやり方を非難する内容のもので、軍国主義者等によって無理やり戦陣に駆り立てられ、徒にその青春を奪われ、前途有為の若者達の命を無駄に捨てさせたというもので、彼らが国家・民族存亡の危機を救わんとして雄々しく命を捧げたことに対する感謝の気持ちや慰霊・顕彰の心など微塵もないものであった。日本人の歴史や文化、風土に培われた伝統的な精神、大和魂や武士道の精神など全く否定するものであった。

ところが、その入校直後から他のクラスや上級生による我々軍学校出身者に対する吊し上げが始まった。我々軍学校出身者はゾル (Zoll) ゾルダート・ドイツ語の軍人又は兵の略称) とか敗残兵と蔑まれ、軍国主義者と蔑称されて、休み時間には大勢教室に乱入してきて、一人一人教壇に立たせて自己批判を強要した。まるで中国共産党紅衛兵のやり方である。軍学校出身者の大半は、自己批判の要なし、命を捧げて国のために尽くしたんだ、と毅然たる態度を取った。しかし、中には自己批判をし、彼等の強要する左翼の社研(社会科学研究会)に入会した者もいたよ



戦後逸早く、東京大学協同組合出版部から刊行された『きけ わだつみのこえ―日本戦没学生の手記』(同編集委員会編)という出陣学徒の戦歿者が書き遺したという遺書や遺文で、当時の学生を中心とした若者に大きな衝撃を与え、映画にもなったが、極めて反

今も思い出されるが、終戦直後の旧制高校においても、学生間で、戦争批判、特に軍部批判が激しく議論されていた。筆者は昭和20年9月初め、陸軍予科士官学校の長期演習地、浅間山麓の新鹿沢から復員し、その年の10月中旬に実施された編入試験に合格して、11月1日から旧制高校に進学したが、編入できたのは、僅かに文科甲類(第1外国語―英語、第2外国語―ドイツ語)1クラス30数名に過ぎなかった(当時、理科は6クラスもあったのに何故か、1名も編入を受け入れてくれなかった)。そして、そのクラスの半数は陸士海兵ほか軍学校出身者、残り半数は海外の帝大(台北・京城)や私大予科・専門部出身者であった。

その当時の引揚者の実態が、今なお脳裏に刻まれている。



我が国では、大東亜戦争中の「学徒出陣」を巡って今なお、反戦思想や軍部非難の槍玉に挙げられているようである。特に多くのマスコミによってこの「学徒出陣」が歪曲されているように思える。

学徒出陣とは、昭和18年当時、大学や高校・専門学校等の学生・生徒達は、国民の義務であった徴兵を猶予される立場にあった(昭和2(1927)年に制定された兵役法は、満20歳の男子に、陸軍は2年、海軍は3年の兵役を義務付けていた。一方で、中学校以上の学生・生徒には、27歳になるまで徴兵猶予の特典があった。しかし、日米開戦が迫った昭和16(1941)年10月、勅令によって兵役法が改正され、猶予は大学生で24歳、ただし、医学部のみは25歳に短縮された。卒業時期も昭和16年度には12月、昭和17年度以降は9月に繰り上げとなった)が、更に戦局の逼迫に伴い、兵力の補強、特に将校及び下士官の不足を補う対策として、昭和18年10月2日勅令(七五五号)により、兵役法第41条の徴集猶予の適用

停止となり、それまで勉学を理由に徴兵を猶予されていた大学・高等学校・専門学校等の学生・生徒で、徴兵適齢者、ただし、理工系(医・農を含む)と師範の学生・生徒を除く文科系の学生・生徒が徴集されることになった。いわゆる学徒出陣である。

その当時、既に昭和18年9月には、女子勤労挺身隊の名で、女子志願者の工場動員が始まり、翌19年6月からは12歳以上の未婚者が強制的に動員され

ている。男子は14歳から40歳未満の殆ど全部が軍需工業などに動員されたのである。

したがって、マスコミ、特にテレビなどで昭和18年10月21日に神宮外苑で実施された「学徒出陣壮行式」の映像を用いながら、軍部のやり方を非難したりするのは当たらない。徴兵猶予の停止措置は、同世代の他の若者と同じ扱いをしただけのことである。

適用停止の閣議決定は、9月21日に行われ、翌日には東條英機首相がラジオで発表し、該当する学生・生徒は、同年12月に徴兵検査を受け、合格者は同月中に、陸海軍に入営するという慌ただしさであった。この措置によって昭和18年12月に入営した学徒は、全国で6万人以上、あるいは9万人〜13万人とも言われているが、翌昭和19年には、徴兵年齢が19歳に引き下げられて入営者は倍増しており、更に、それ以前の9月に、繰上卒業により、徴集されて入営した者も多く、結局、出陣学徒の総数は、明確ではない。また、出陣学徒の多くは、入営後、選抜されて陸軍特別操縦見習士官や海軍予備学生に採用され、将校・士官になった者も多く、その数は2万人近いと推定されている。

また、大東亜戦争における出陣学徒

の戦没者数についても、各大学によって全卒業生を含めるなど、数え方がまちまちであるため、正確な数ではないが、白井厚慶大名誉教授の調査によると、早大が4561柱、慶大が2225柱、東大が1652柱などとなっている。

昭和18年10月21日の出陣学徒壮行会では、雨の降りしきる中、東京帝国大学以下77校約2万5千人の学徒達は、着剣した銃を肩に堂々とグラウンドを分列行進した。壇上から東條首相は、「敵米英においても、諸君と同じく幾多の若き学徒等が戦場に立っている。諸君は彼等と戦場に相対し、気迫においても戦闘力においても、必ずや彼等を圧倒すべきことを深く信じて疑わぬ・・・」と、鼓舞激励した。学生を代表して、東京帝国大学文学部2年の江橋慎四郎(元鹿屋体育大学長・93歳)氏が、「生等もとより生還を期せず。在学学徒諸兄、また遠からずして生等に続き出陣の上は、屍を乗り越え・・・」と、勇ましくも悲壮な答辞を述べた。

観客席では、女子生徒を含む学徒等96校約5万人が見送り、競技場には「海行かば」の斉唱が飴した、と当時の新聞・NHK等は一斉に報道した。

戦後、学制改革の行われるまでは、専門学校以上の高等教育を受けた者は

僅かに2〜3パーセント、中等教育を受けた者でも10〜20パーセントに過ぎなかったのではないか。したがって、高等教育を受けた者は、将来、国政や社会のリーダーとして役立つ者にならなければならない、そして、国のため、社会のために恩返しをしなければならぬ、と自他共に認識していた。正に、ノーブレス・オブリージュである。そして、その裏付けとなっているのは、日本人の伝統的価値観である、「武士道」や「大和魂」である。

人の上に立つということは、公義、つまり、社会的正義(ソーシャル・ジャスティス)を実現するため、公義に殉ずる心構えや気概があつてこそ、初めて真のリーダーシップを発揮し得るのではなからうか。

この言葉の意味する精神は、西欧の社会では古く、古代ギリシャ時代から言われていたことである。そして、今日でも欧米の主要諸国では、この精神は確立していると言える。即ち、高等教育を受けた者は、将来その社会の指導的地位と裕福な生活を約束されている。このため祖国が戦争等の危難に直面すると、真っ先に戦場に駆け付けるのが当然の義務とされているのである。

英国のケンブリッジ大学など名門校



日系アメリカ人松藤大治は、日本のために特攻隊員として死ぬことを選んだ。

の学生は、総力戦となった第一次、第二次大戦で、真っ先に戦場に赴いた。米国の大学生も同様で、戦争勃発と同時に戦場に赴いた。ブッシュ元大統領（父親）が、大東亜戦争の緒戦、日本海軍の真珠湾攻撃に対する「リメンバー・パールハーバー」の檄に呼応して、高校卒業直後、海軍に志願し、雷撃機のパイロットとなり、日本近海で二度も撃墜され、その都度近くにいた米潜水艦に救助されて一命を取り留めた、という逸話は有名である（余談であるが、当時、米軍機のパイロットで日本軍に撃墜され、小笠原の父島に降下して捕虜となり、いわゆる生体解剖で試食されたという、終戦直後問題となった戦犯事件があった際、ブッシュ元大統領が、私も島に降下していれば日本軍の餌食にされていたかも知れないなどと、冗談を言ったとか）。

昨年（2019年）の11月2日、靖國神社・遊就館での終戦70年特別企画第28回「日本の

誇り」歴史体験セミナーの特別研修「大東亜戦争を戦った日本人の気概」と題するノンフィクション作家・門田隆将氏の講演の中で、大東亜戦争を戦った多くの出陣学徒達が、如何なる気概を持っていたか、祖国日本を護り、家族や愛する人々を守るために身を捨てて戦ったかを例示しながら話をされたが、特に、同氏の著作『蒼海に消ゆ―祖国アメリカへ特攻した海軍少尉「松藤大治」の生涯―』の中で、アメリカ生まれの日系二世で、米国籍を有する松藤大治が、日本留学中の東京商大（現一橋大学）の学生で学徒出陣し、第14期海軍予備学生となり、厳しい飛行訓練を受けて海軍少尉となつて、父祖の国日本のために特攻隊員として沖繩の米艦船に突入し、散華された例を挙げ、何ゆえに彼が日本のために特攻隊員として死ぬことを選んだのか、これこそ、彼のDNAに刻まれた父祖伝来の大和魂の発露であり、ノーブレス・オブリージュの典型であるとされ、松藤大治に限らず、当時の出陣学徒の多くが、その自覚の下に進んで祖国・民族の危難に身を捧げたのである、その尊い犠牲的精神、気概、そして「やむにやまれぬ大和魂」の発露に、我々は深甚なる敬意と感謝を捧げなければならぬ、と涙ながらに話された。

なお、前記の門田隆将氏の著作『蒼海に消ゆ』については、会報「特攻」第92号「新刊図書紹介」欄に大澤俊夫氏（陸士61期）筆「或るアメリカ人二世の特攻」として、及び同第99号に、筆者の「学徒出陣70年」第30回大東亜戦争戦没全學徒慰霊祭」として、それぞれ掲載されている。

また、前記の元台湾総統・李登輝氏の著作『武士道』解題ノーブレス・オブリージュとは』でも、新渡戸稲造の『武士道』を高く評価し、その中に説かれている義、勇、仁、礼、誠、そして名誉、忠義、克己などは、論理を越えて武士たる者が守るべき道徳的原理の掟であつて、少数の天才や飛び抜けた道学者たちが造つたのではなく、古代思想の大路小路より抜き集めたる平凡かつ断片的なる教訓の穂束から何百年もかけて造られた規範である、だからこそ、普遍的な価値があるのである、と強調している。そして、前記著作に収録されている幻の講演原稿「日本人の精神」（李登輝氏が2002年10月に慶応大学の学生サークル「経済新人会」から、同大学の学園祭・三田祭での講演を依頼され、招聘を受けたが、種々の事情で訪日ビザが発給されなかったため、来日しての講演はできなかったが、その講演に備えて、著者

自ら筆を執り、日本語で手書きした原稿を作成、送付してこられたものである）の中で、特に台湾で最も愛される日本人の一人、八田與一技師の功績について、同技師が、日本統治下の1930年、10年の歳月と、当時の金で5400万円の予算を注ぎ込み、あらゆる困難に打ち勝ち、創意工夫を凝らして遂に完成させた、台湾嘉義台南平野の烏山頭ダム（嘉南大圳）は、当時、東洋一の大灌漑土木工事として世界の注目を集めたが、同技師は32歳の時に設計に取りかかり、34歳の若さで現場監督として工事の指揮を取り、44歳でこの大事業を完成させた。この工事の完成によって殆ど不毛の地であったこの地域15万町歩に毎年8万3000トンの米と甘蔗（サトウキビ）その他の作物が収穫されるようになり、嘉南平野を台湾最大の穀倉地帯に変えた。同技師は、今も「嘉南大圳の父」として60万農民から畏敬の念をもって称えられている。同技師がそれを成し遂げたのは、その卓越した能力、独創性と実行力、更にもその生き方や思想によるものである。八田氏は、技術者として抜群に優れていたばかりでなく、人間としても優れ、肩書きや人種、民族の違いによる差別など決してしなかった。それは、八田氏によつ

て表現される日本精神にほかならない。日本を数千年の長きにわたって根幹からしっかりと支えてきたのは、日本精神、つまり武士道や大和魂と言われる気高い価値観や道徳観であり、その根底にあるものこそは「公に奉ずる」精神、ソーシャル・ジャスティスを実践することである、と李登輝氏は強調しておられる。

顧みて、出陣学徒こそは、公に奉ずる精神の実践者であり、国家・民族危急存亡の秋に当たり、率先学業を捨てて戦陣に赴き、ある者は華々しく戦って散り、ある者は敢闘虚しく敗れたのである。国難に際し、国や民族のリーダーとして、率先、命を捧げてこれを護ろうとした、戦歿学徒に名譽と敬意を払おうとはせず、徒に犠牲者扱いにし、無駄死にとする考え方は、根本的に改めなければならない。彼らこそ、英雄であり、民族の誇りとして尊崇すべきである。そして、彼らこそ、世界平和の礎となったのである。彼らこそ伝統あるノーブレス・オブリージュの実践者なのである。

## 特攻勇士の慰霊・顕彰施設②



万世特攻慰霊碑「よろずよに」



万世特攻平和祈念館



鹿屋特攻隊戦没者慰霊塔



海上自衛隊・鹿屋航空基地資料館



土浦海軍航空隊・豫科練之碑



雄翔館（豫科練記念館）

平成27年度慰霊行事予定(当顕彰会主催及び他団体主催慰霊祭参加予定)

(慰霊行事名)	(日時・場所)	(主催者名等)	(慰霊行事名)	(日時・場所)	(主催者名等)
①第37回特攻隊合同慰霊祭	27・3・28(土) 靖國神社	(公財)特攻隊戦没者慰霊顕彰会	⑭海原会慰霊祭	27・5・24(日)	豫科練之碑前 旧土浦海軍航空隊(陸自武器学校)内
②宮崎特攻基地慰霊祭	27・4・5(日)	豫科練雄飛会	⑮義烈空挺隊慰霊祭	27・6	健軍・義烈空挺隊慰霊碑前 空挺同志会熊本県支部
③豫科練雄飛会戦没者靖國神社慰霊祭	27・4・5(日) 靖國神社		⑯大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭	27・7・4(土)	靖國神社 (公財)大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
④旧海軍鹿屋航空基地特攻隊戦没者追悼式	27・4・4(土) 慰霊塔前	鹿屋市	⑰第64回特攻平和観音年次法要	27・9・23(水)	特攻観音堂 世田谷山観音寺(公財)特攻隊戦没者慰霊顕彰会
⑤第39回都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭	27・4・6(月) 靈碑前	都城市特別攻撃隊奉賛会	⑱明野忠魂塔慰霊祭	27・10・17(土)	明野忠魂塔前 伊勢市明野・陸自航空学校内・明野忠魂塔顕彰会
⑥第47回徳之島慰霊祭(戦艦大和を旗艦とする第二艦隊戦没者)	27・4・5(日) 慰霊塔前	鹿児島県伊仙町慰霊祭実行委員会	⑲旧海軍航空隊申良基地出撃戦没者追悼式	27・10・10(土)	申良平和公園慰霊塔前 鹿屋市
⑦第55回出水市特攻慰霊祭	27・4・16(木) 特攻碑公園慰霊碑前	鹿児島県出水市特攻慰霊碑顕彰会	⑳靖國神社秋季例大祭(当日祭)	27・10・18(日)	靖國神社 靖國神社
⑧第44回萬世特攻慰霊碑慰霊祭	27・4・12(日) 萬世特攻慰霊碑前	南さつま市・万世特攻慰霊碑奉賛会	㉑日比合同神風特攻隊慰霊祭(世界平和祈念式典)	27・10・25(日)	クラークフィード・リリーヒル・平和観音像前他 フィリピン・マバラカット市
⑨靖國神社春季例大祭(当日祭)	27・4・22(水) 靖國神社	靖國神社	㉒大阪護國神社特攻勇士之像慰霊祭	27・10・25(日)	大阪護國神社 大阪特攻勇士之像慰霊顕彰会
⑩京都靈山護國神社特攻勇士之像慰霊祭	27・5・24(日) 京都靈山護國神社	京都・特攻勇士之像慰霊顕彰会	㉓第49回若潮会慰霊祭	27・11・8(日)	靖國神社 若潮会(陸軍船舶隊)
⑪第61回知覧特攻基地戦没者慰霊祭	27・5・3(日) 知覧特攻平和観音堂前	南九州市・知覧特攻慰霊顕彰会	㉔回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式	27・11・8(日)	大津島・回天慰霊碑前 山口県周南市大津島回天顕彰会
⑫三島村特攻平和祈年祭	27・5・11(月) 黒島平和公園	鹿児島県・黒島三島村			
⑬第49回特攻殉国の碑慰霊祭	27・5・10(日) 特攻殉国の碑前	長崎県・川棚町新谷郷・殉国の碑保存会			